

産地生産基盤パワーアップ事業 取組事例

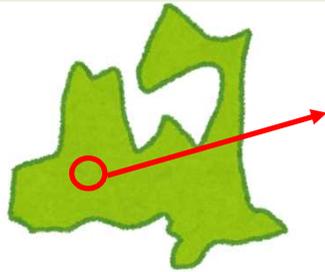
青森県

成果目標	市町村名	地区名	品目名	掲載番号
生産コスト 10%以上削減	弘前市	十腰内地区	露地野菜 (キャベツ、レタス、だいこん)	1
	黒石市	沖揚平・中野地区	露地野菜 (キャベツ、レタス、ハクサイ)	2
	三戸町	大舌地区	ながいも	3
	田子町	上野地区	にんにく	4
	東北町	長久保地区	露地野菜(ながいも、だいこん、 にんにく、ごぼう)	5
	六ヶ所村		露地野菜(ながいも、ごぼう、 だいこん、にんじん、たまねぎ)	6
販売額 10%以上増加	青森市	青森農協ミニトマト部会地区	ミニトマト	7
	五所川原市、弘前市、 板柳町、鶴田町	一之坪地区、十腰内地区、 夕顔関地区、廻堰地区	大豆	8
	平川市	広船そと川地区	りんご	9
	つがる市	つがるにしきた農協つがる野菜部会 ねぎ班地区	野菜(ねぎ)	10
	つがる市	柏小和巻共同防除地区	りんご	11
	鶴田町	西中野地区	りんご	12
	藤崎町	林崎地区	りんご	13
	東通村	東通村	施設野菜(いちご)	14
	むつ市	脇野沢地区	そば	15

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成28～29年度:弘前市担い手育成総合支援協議会)(青森県)

取組の概要

対象品目 : 野菜(キャベツ、レタス、大根)
(産地面積30ha)
 主な取組主体 : (株)黄金崎農場
 成果目標 : 生産コストの10%以上の削減
 基準(H27年度) 269千円/10a
 目標(H30年度) 219千円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース
 (トラクター1台、収穫機1台))



青森県
弘前市
十腰内地区

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

弘前市は第一次産業が基幹産業であり、農業産出額は全国的に見ても高い状況にあるが、その大部分は生産量日本一であるりんごが占めている。しかしりんご生産は、台風による落果や降雪による品質低下など、自然災害が直接的に農業所得に影響するため、りんご以外の作物の生産振興が課題となっている。また、農家の高齢化や担い手不足、労働力不足も進んでいる。

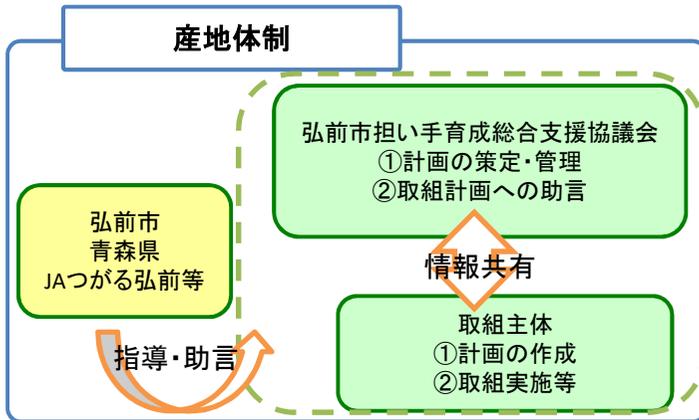
そこで、機械を導入し生産コストを削減することで、作業受託による野菜の生産面積拡大を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

作業受託による面積拡大を行い地区を牽引するための、トラクター及び収穫機の導入。

産地体制



取組成果

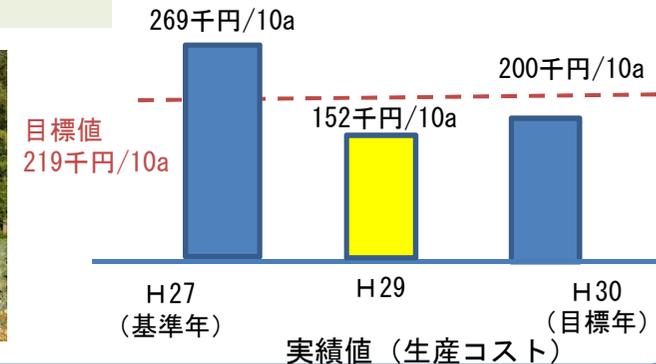
【事業実施による直接効果】

- ①トラクター、収穫機の導入による面積拡大
- ②人件費等のコスト削減

【事業実施による間接効果】

- ①作業受託による面積拡大に伴う休閑農地の減少

生産コストが26%削減
(達成率140%)



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・耕作放棄地の解消とともに栽培面積の増大
- ・冬季の農閑期に雪下人参の収穫・出荷の取組により通年での雇用確保
- ・大規模面積を活かした機械化農業

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(28~29年度:計画作成主体:黒石市農業再生協議会)(青森県)

取組の概要

対象品目 : 露地野菜(レタス・ハクサイ・キャベツ)
(産地面積24ha)
 主な取組主体: 有限会社サニタスガーデン
 櫻田 行雄
 成果目標 : 生産コストの10%削減
 基準(H27年度)367,163円/10a
 目標(H30年度)330,250円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース)
 (トラクター・全面マルチャー・移植機 各1台)
 (ブームスプレーヤー 1台)

青森県
 黒石市
 沖揚平・中野地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

当地区は、標高が高く冷涼で昼夜の寒暖差が大きい気候にあり、レタス・ハクサイ・キャベツ等の露地野菜の栽培に適しています。

こうした栽培環境の中で今後の経営発展を考えた時、生産性の向上と規模拡大は必須であり、そのためには作業精度の向上と生産性の改善によるコスト低減を実現することが課題となります。

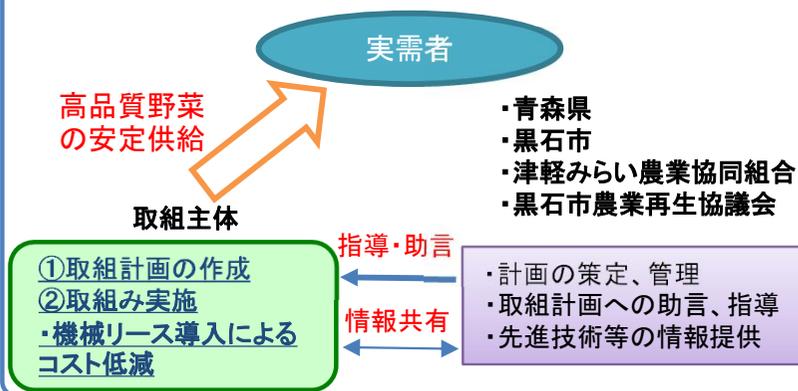
課題解決に向けた具体的な計画としては、トラクタ、マルチャー、移植機、ブームスプレーヤーの高性能機械の新規導入です。

これにより、傾斜地の多いほ場において作業性の精緻さに格段の向上が見込まれるとともに、労力を大幅に削減することでコスト低減を目指します。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①省力化及び規模拡大を図るためのトラクター、全面マルチ、ブームスプレーヤーの導入支援
- ②作業効率の向上と労務費削減を実現可能とする移植機の導入支援

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・農産物の品質・生産管理マネジメントシステム(Quality Product Management System: 以下QPMSという)を運用し、高品質野菜の生産に取り組んでいる。
- ・黒石市では、地方独立行政法人青森県産業技術センターとの連携協力協定の締結により、地域や農業者が抱える問題に対し、速やかに対応できる体制を構築し、事業を展開している。

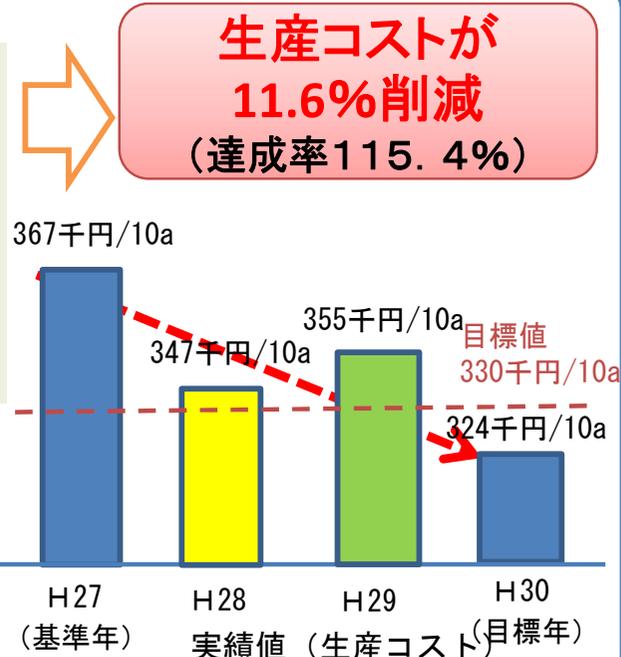
取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①農産物の安定生産と高品質化
- ②作業効率改善による栽培面積の拡大
- ③労働時間の短縮と生産性向上によるコスト縮減

【事業実施による間接効果】

品質向上による産地確立と有利販売の拡大



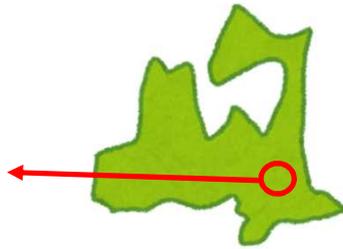
産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例（平成28年度：三戸町農業再生協議会）（青森県）

取組の概要

対象品目 : ながいも（産地面積：3.4ha）
 主な取組主体 : ながいも生産者2名
 成果目標 : 生産コスト10%以上削減
 基準（H27年度）180,452円/10a
 目標（H30年度）161,137円/10a

導入施設等 : 生産支援事業（機械リース）
 （トラクター1台、ロータリー等）

青森県
三戸町
大舌地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

産地の基幹作物である「ながいも」は地域農家の高齢化による労働力不足にあり、労力の軽減を図ることでこれまでより農作業の効率化を図る必要がある。また、農作業の効率化を図ることで作付け面積の拡大を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

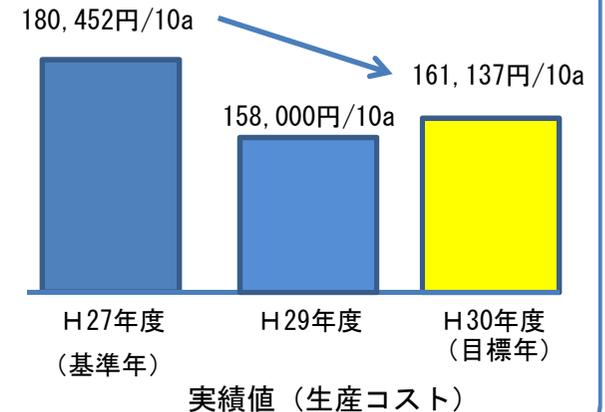
- ①面積拡大のための高性能な農業機械のリース導入
- ②省労力化や生産コストの削減のための農作業の機械化

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①農業機械リース導入による面積の拡大
- ②農作業の機械化による労働時間の削減
- ③農作業の機械化による生産コストの削減

**生産コストが10.7%
削減
(達成率100%)**



産地体制

・三八地域県民局地域
農林水産部(県)
・三戸町
・JA八戸

三戸町農業再生協議会
①計画の策定・管理
②取組計画への助言

指導・助言

情報共有

・協議会と取組主体との情報共有(取組状況等)
・行政機関(県、町)及び農協によるサポート体制

取組主体
①取組計画の作成
②取組実施 等

地域における独自の取組

〈主な取組〉

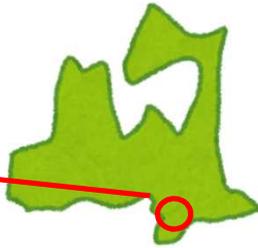
- トラクター、ロータリー、ながいも掘取機等の高性能農業機械の導入による省力化を実施
- 農地中間管理機構を活用した面積拡大

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成28年度:田子町地域農業再生協議会)(青森県)

取組の概要

対象品目 : にんにく(産地面積: 11ha)
 主な取組主体 : にんにく生産者2名
 成果目標 : 生産コスト10%以上削減
 基準(H27年度) 646,197円/10a
 目標(H30年度) 581,577円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース)
 (乗用管理機1台)

青森県
 田子町
 上野地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

産地の基幹作物である「にんにく」は地域農家の高齢化による労働力不足にあり、労力の軽減を図ることでこれまでより農作業の効率化を図る必要がある。また、農作業の効率化を図ることで遊休農地を活用した作付け面積の拡大を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

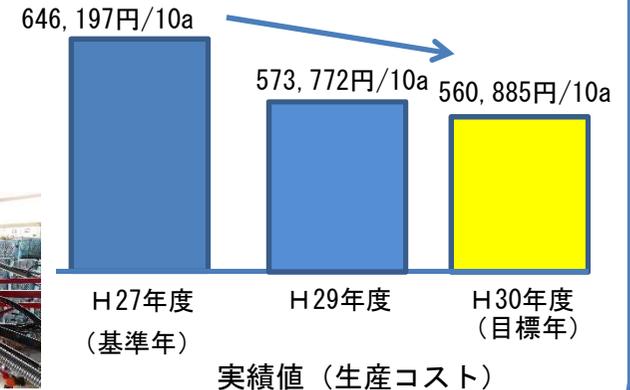
- ①薬剤散布作業等労力の省力化のための高性能な農業機械のリース導入
- ②遊休農地を活用した面積拡大のための農作業の機械化

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①農業機械リース導入による面積の拡大
- ②農作業の機械化による労働時間の削減
- ③農作業の機械化による生産コストの削減

**生産コストが13.2%
 削減
 (達成率132%)**



産地体制

三八地域県民局地域
 農林水産部(県)
 ・田子町
 ・JA八戸

田子町地域農業
 再生協議会
 ①計画の策定・管理
 ②取組計画への助言

指導・助言

情報共有

・協議会と取組主体との情報共有(取組状況等)
 ・行政機関(県、町)及び農協によるサポート体制

取組主体
 ①取組計画の作成
 ②取組実施等

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 防除作業の機械化による省力化を実施し、遊休農地を活用した面積拡大
- 土壌診断に基づく過剰施肥の低減

取組の概要

- 対象品目 : 露地野菜(ながいも、だいこん、ごぼう、にんにく、にんじん、キャベツ)(産地面積:68.7ha)
- 主な取組主体 : ながいも等生産者8名
- 成果目標 : 生産コストの10%以上の削減
 基準(H28年度)549千円/10a
 目標(H30年度)490千円/10a
- 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース)
 (トラクター、収穫機等23台)



青森県
東北町
長久保地区

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

高性能機械の導入による作業効率の向上、規模拡大に伴う中心的経営体への農地の集積、栽培マニュアルに基づく施肥管理を徹底することにより生産コスト10%以上削減を実現



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①休耕地等の中心経営体への集積による規模拡大
- ②栽培マニュアルに基づく施肥管理の徹底

産地体制

- ・上北地域県民局地域農林水産部(県)
- ・東北町
- ・JAゆき青森

- 東北町農業再生協議会
- ①計画の作成
 - ②取組主体への助言

情報共有

取組主体

- ①計画の作成
- ②取組実施

指導・助言

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・休耕地等の中心経営体への集積による規模拡大
- ・栽培マニュアルに基づく施肥管理の徹底

取組成果

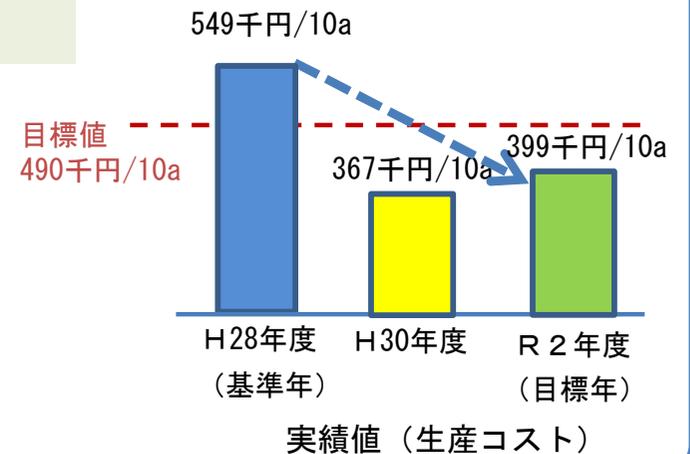
【事業実施による直接効果】

- ①リース支援による初期投資の節減効果
- ②栽培マニュアルの設定による品質向上効果

【事業実施による間接効果】

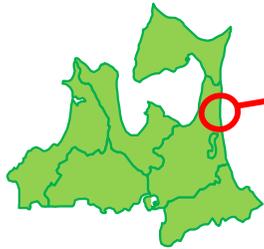
- ①産地の作付面積が拡大し、生産量が増加

生産コストが27%削減
(達成率255%)



取組の概要

- 対象品目 : 露地野菜(ながいも、ごぼう、だいこん、にんじん、たまねぎ)
(産地面積:930ha)
- 主な取組主体 : ながいも等生産者37経営体
- 成果目標 : 生産コストの10%以上の削減
基準(H27年度)309千円/10a
目標(R2年度)275千円/10a
- 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース)
(トラクター、収穫機等62台)



青森県
六ヶ所村
六ヶ所村地区

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

高性能機械の導入による作業効率の向上と農地の集約、栽培マニュアルに基づく施肥管理の徹底により生産コスト10%以上削減を実現



【産地の体質強化に向けた方策】

- ① 離農者の農地等を集約することによる面積拡大
- ② 栽培マニュアルに基づく施肥管理の徹底

産地体制

- ・上北地域県民局地域農林水産部(県)
- ・六ヶ所村
- ・六ヶ所村農業委員会
- ・JAゆき青森

六ヶ所村農業再生協議会

- ① 計画の作成
- ② 取組主体への助言

情報共有

取組主体

- ① 計画の作成
- ② 取組実施

指導・助言

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・離農者の農地等を集約することによる面積拡大
- ・栽培マニュアルに基づく施肥管理の徹底

取組成果

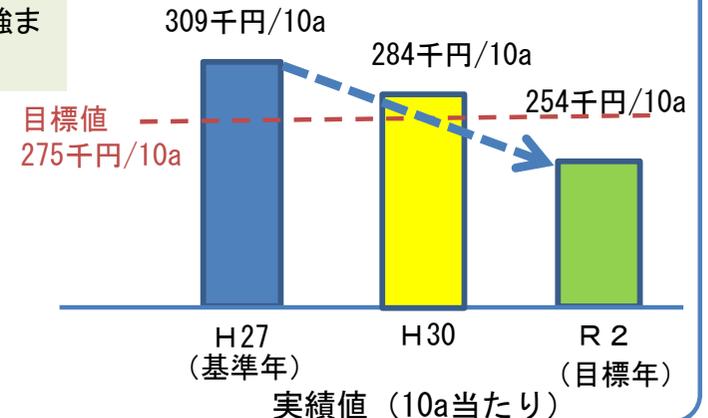
【事業実施による直接効果】

- ① リース支援による初期投資の節減効果
- ② 栽培マニュアルの設定による品質向上効果

【事業実施による間接効果】

- ① 担い手による作付面積が拡大し、生産量が増加
- ② 品質向上により、引き合いがさらに強まり、販売単価が増加

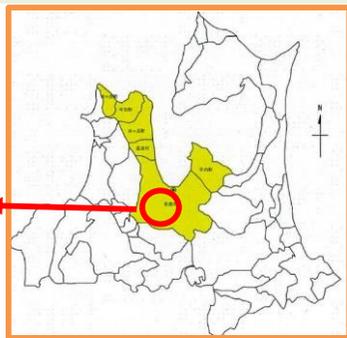
生産コストが
18%減少
(達成率160%)



取組の概要

対象品目 : 施設野菜(ミニトマト)(産地面積2.2ha)
 主な取組主体 : ミニトマト生産者5経営体
 成果目標 : 所得額の10%以上の増加
 基準(H28年度)3,141千円/10a
 目標(H31年度)3,455千円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業(パイプハウス4棟、養液栽培システムリース)

青森県
 青森市
 青森農協
 ミニトマト部会地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

JA青森のミニトマトは、平成28年産販売額が約8千万円で野菜販売額の約2割を占める主力品種であるが、誘引作業の省力化や単収向上が課題となっている。また、新規就農者等による作付けが多く、栽培単収に個々の差が見られ、栽培技術の向上に向けた支援が必要なことから、2段換気資材や養液土耕システムの導入などにより品質の向上や収量の増加を図り、単位面積当たり販売額の増加を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①夏季の高温障害低減のための特殊被覆資材や2段換気資材の導入
- ②適切な養水分管理をするための養液土耕システムの導入

産地体制

JA青森・青森市

- ・個別成績表や防除暦の作成による栽培技術の平準化
- ・共同販売による販売力の向上

需要に応じた供給

実需者

品位・単価等の共有
 農業普及指導室

需要に応じた供給
 栽培農家

- 特殊被覆資材等導入のパイプハウスの新設
- 養液土耕栽培システムのリース

指導・助言

- ・重点普及指導計画に位置づけ計画的支援
- ・栽培講習会開催と個別成績表を基にした個別巡回実施

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・高畦栽培を導入
- ・産地全体で初夏摘房や液肥の葉面散布を実施
- ・個別成績表を基に農家個々の課題整理と解決を支援

取組成果

【事業実施による直接効果】

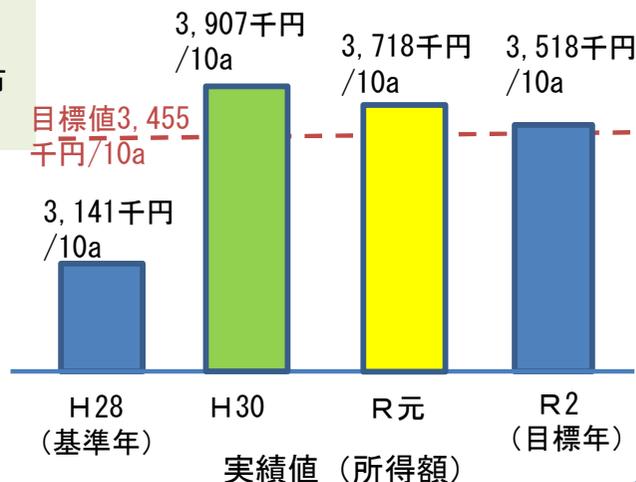
- ①作付面積が拡大し、生産量が増加
- ②リース支援による初期投資の節減

【事業実施による間接効果】

- ①高畦栽培導入で根域拡大により収量増
- ②産地全体で初夏摘房や液肥の葉面散布を実施し価格が高い時期の収量が増



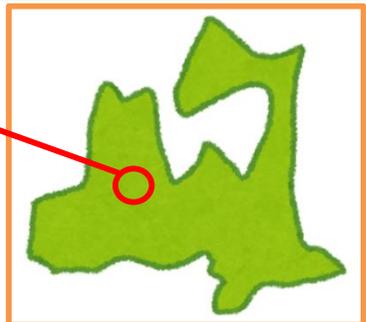
所得額が10%
 以上増加
 (達成率120%)



取組の概要

対象品目 : 大豆(産地面積91.9ha)
 主な取組主体 : 有限会社豊心ファーム
 成果目標 : 販売金額の10%以上の増加
 基準(H27年度) 10,944円/10a
 目標(H30年度) 12,048円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース)
 (産業用無人ヘリコプター 1台)

青森県
 五所川原市一野坪地区
 弘前市十腰内地区
 板柳町夕顔関地区
 鶴田町廻堰地区



ポイント

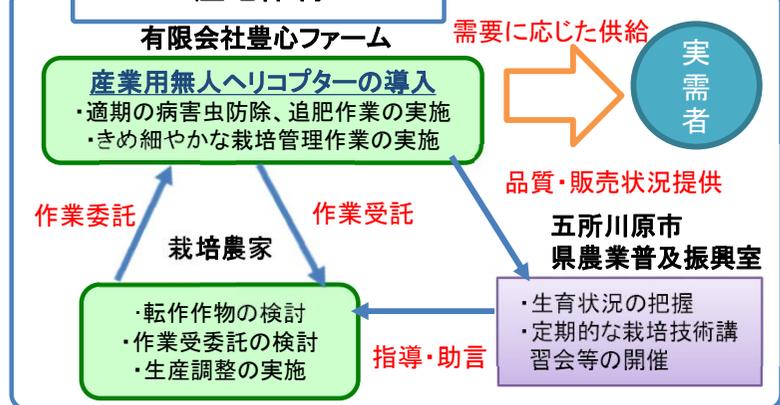
【産地の課題及び取組方向】

当地域の転作の推進に当たり、大豆は畑作物の中で最も重要な位置を占めている。転作田における大豆生産の収益性を高めるためには、効率的な作業体系を構築して作業の省力化を図ることに加え、品質の一層の向上が必要な状況にある。そこで取組主体では、大豆生産農家の作業を積極的に受託するとともに耕起から乾燥調製までを一貫して行うことにより、産地として高品質大豆の生産、販売を実現して、販売金額の増加を図る。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①産業用無人ヘリコプター等高性能農業用機械のリース導入による適期の病害虫防除及び追肥作業の実施
- ②積極的な作業受委託の展開による大豆栽培面積の拡大
- ③機械化一貫作業体系の確立による大豆の安定生産
- ④きめ細やかな栽培管理作業の実施による高品質大豆の生産

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・産業用無人ヘリコプターを導入し、面積拡大や適期の病害虫防除と追肥を実施
- ・機械化一貫作業体系の確立

取組成果

【事業実施による直接効果】

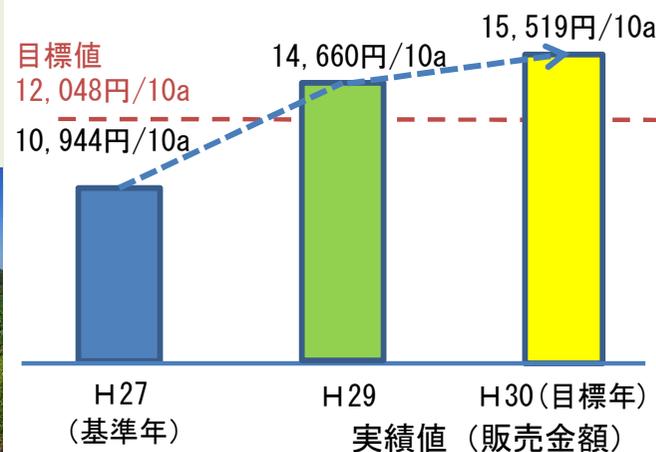
- ①リース導入による設備投資の節減
- ②適期の病害虫防除、追肥作業の実施による高品質大豆生産
- ③上位等級比率の向上
- ④機械化一貫作業体系の確立

【事業実施による間接効果】

- ①作業受委託の促進
- ②農業機械の有効活用



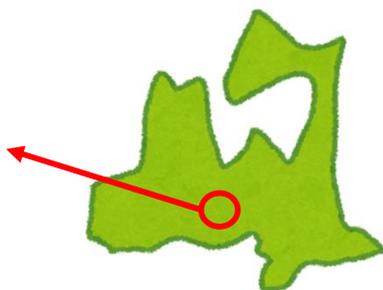
販売金額が
42%増加
 (達成率414%)



取組の概要

対象品目 : 果樹(りんご)(産地面積:13.3ha)
 主な取組主体 : (株)そと川りんご園 農業者2名
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 基準(H27年度) 541千円/10a
 目標(H30年度) 596千円/10a
 導入施設等 : 整備事業(集出荷貯蔵施設)

青森県
平川市広船
そと川地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

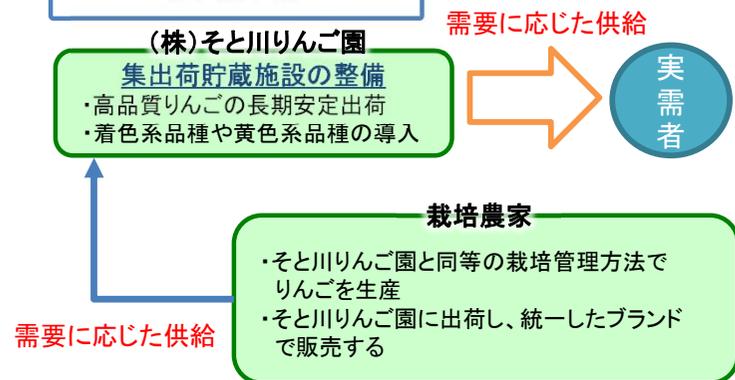
りんご集出荷貯蔵施設の整備による、高品質りんごの長期安定出荷に取り組むことで、販売額の増を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①高品質りんごの長期安定出荷による有利販売を可能とさせる集出荷貯蔵施設(冷蔵庫)の導入
- ②着色作業の省力化と商品化率向上のための着色系品種や黄色系品種の導入

産地体制



取組成果

【事業実施による直接効果】

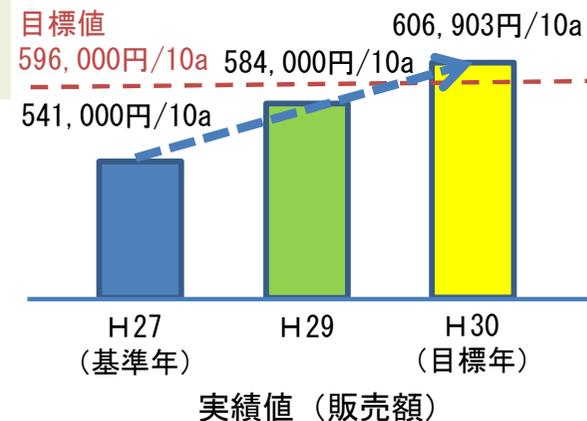
高品質りんごが安定出荷されたことによる販売単価の向上及び販売量の増加

【事業実施による間接効果】

販売額の増加により、生産者の所得向上につながり、りんご産地の強化が実現



販売額が
12%増加
(達成率120%)



地域における独自の取組

〈主な取組〉

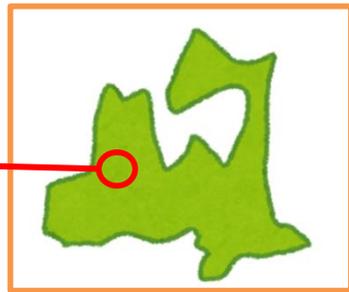
- ・園地の若返りや栽培技術の更なる向上
- ・市単独事業により、水田への新植及び排水路の整備に対して補助を実施

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(27年度:計画作成主体:つがるにしきた農業協同組合) (青森県)

取組の概要

- 対象品目 : 野菜(ねぎ) (産地面積28.3ha)
 主な取組主体 : 認定農業者12名
 成果目標 : 販売金額の10%以上の増加
 基準 (H27年度) 101千円/10a
 目標 (R2年度) 450千円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース:移植機、
 収穫機、選別機、根切り・葉切り・
 皮剥機)

青森県
つがる市
つがるにしきた
農協つがる野
菜部会ねぎ班
地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

当産地は、稲作を主体に、メロン・スイカ・ねぎの栽培が盛んな地域であるが、米価下落により高収益野菜への移行が求められている。そこで、稲作をより収益性の高いねぎに転換することで、販売額の増加を目指している。

しかし、取組面積の拡大や適期収穫等を行うには、現有の機械設備だけでは不十分であるため、より高性能な機械を導入することにより、効率的な栽培を進める。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①自走式ねぎ収穫機・ねぎ皮剥機等の導入により、収穫時間及び調整時間を短縮する
- ②栽培管理作業の省力化に伴うきめ細やかな栽培管理の実施
- ③栽培面積の拡大

産地体制

青森県
つがる市
JAつがるにしきた

指導・助言

つがる市地域農業再生協議会
①計画の策定・管理
②取組計画への助言

情報共有

・協議会と取組主体との情報共有(取組状況等)
 ・行政機関(県、町)及び農協等によるサポート体制

取組主体
①取組計画の作成
②取組実施等

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①リース導入による初期投資の節減
- ②収穫・皮剥作業の省力化
- ③適期の栽培管理作業の実施

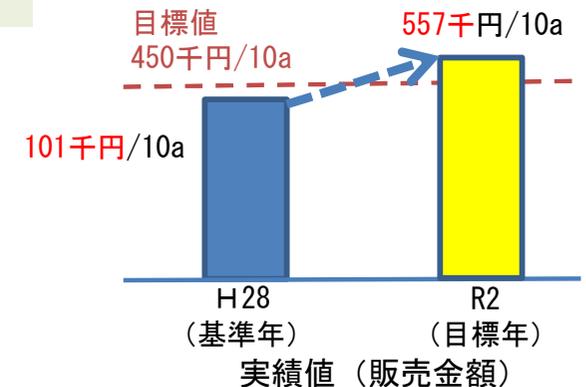
【事業実施による間接効果】

- ①栽培面積の拡大
- ②きめ細やかな栽培管理の実施



販売額が10%以上増加
(達成率130.4%)

導入した機械により適期に栽培管理が行われ、品質及び収量が向上し、目標を達成することができた。



地域における独自の取組

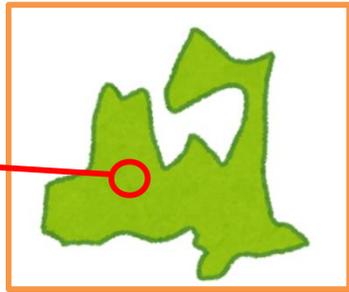
〈主な取組〉

- ・収穫時間及び調製時間の短縮
- ・稲作から収益性の高いねぎへの転換

取組の概要

対象品目 : 果樹(りんご) (産地面積21ha)
 主な取組主体 : 小和巻第一りんご共同防除組合
 小和巻第二共同防除組合
 成果目標 : 販売金額の10%以上の増加
 基準(H27年度) 398千円/10a
 目標(H30年度) 438千円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース
 (スピードスプレーヤー 2台))

青森県
つがる市
柏小和巻
共同防除地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

つがる市は「日本最古のりんご樹の里」として古くからのりんご産地であるが、急速な高齢化による労働力不足や、薬剤効果の低下による黒星病等の病害虫の発生などにより、栽培面積の減少、果実品質や収量の低下が課題となっている。

このことから、効率的で効果の高い防除体制を確立することにより、担い手の経営面積の拡大と高品質果実の安定生産を実現し、販売金額の増加を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①高性能の防除機械(スピードスプレーヤー)のリース導入支援
- ②効率的で効果の高い病害虫防除の実施による高品質果実の生産拡大

産地体制

・西北地域県民局地域農林水産部(県)
 ・つがる市
 ・JAつがるにしきた

つがる市地域農業再生協議会
 ①計画の策定・管理
 ②取組計画への助言

指導・助言

情報共有

・協議会と取組主体との情報共有(取組状況等)
 ・行政機関(県・市)及び農協等によるサポート体制

取組主体
 ①取組計画の策定
 ②取組実施 等

取組成果

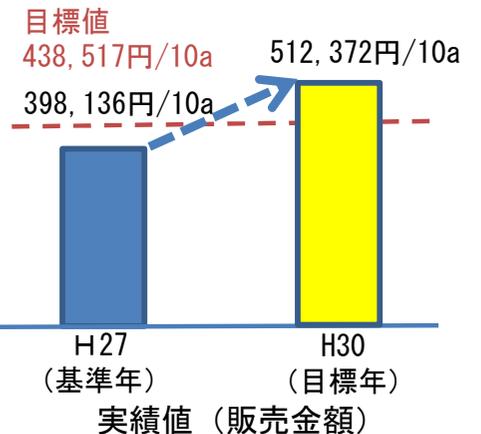
【事業実施による直接効果】

- ①リース導入による設備投資の節減
- ②担い手の経営面積の拡大
- ③病害虫防除徹底による高品質果実の生産
- ④高品質りんごの安定生産の実現による販売金額の増加

【事業実施による間接効果】

- ①防除作業の省力化による栽培管理の徹底に伴う秀品率の向上

販売金額が
29%増加
(達成率283%)



地域における独自の取組

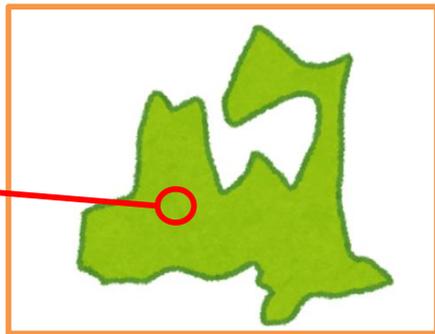
〈主な取組〉

- ・災害に強い園地づくりの推進
- ・園地の若返りや消費者ニーズに高い品種への更新支援

取組の概要

対象品目 : 果樹(りんご)(産地面積11ha)
 主な取組主体 : 西中野共同防除組合
 成果目標 : 販売金額の10%以上の増加
 基準(H27年度) 467千円/10a
 目標(H30年度) 513千円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース
 (スピードスプレーヤー 1台))

青森県
鶴田町
西中野地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

鶴田町はりんごを基幹とした産地であるが、高齢化の急速な進行や補助労働力の不足、薬剤効果の低下による黒星病等の病害虫の発生による果実品質及び収量の低下、栽培面積の減少、栽培管理の行き届かない園地の発生が課題となっている。

このことから、高性能機械を導入して効率よく効果の高い病害虫防除作業を行うことにより、経営規模の拡大と高品質果実の安定生産を実現し、販売金額の増加を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①高性能の防除機械(スピードスプレーヤー)のリース導入支援
- ②効率的で効果の高い病害虫防除の実施による高品質果実の生産拡大

産地体制

・西北地域県民局地域
農林水産部(県)
・鶴田町
・JAつがるにしきた

鶴田町果樹産地協議会
①計画の策定・管理
②取組計画への助言

指導・助言

情報共有

・協議会と取組主体との情報共有(取組状況等)
・行政機関(県・町)及び農協等によるサポート体制

取組主体
①取組計画の策定
②取組実施等

取組成果

【事業実施による直接効果】

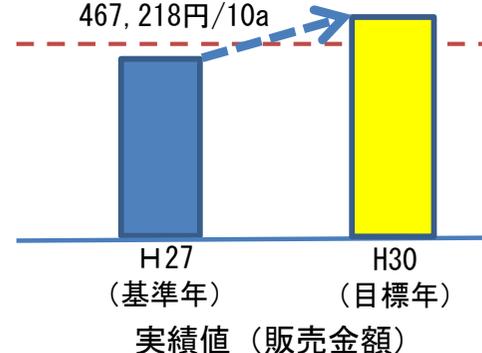
- ①リース導入による設備投資の節減
- ②組合員の経営面積の拡大
- ③きめ細やかな防除による高品質果実の生産
- ④高品質りんごの安定生産の実現による販売金額の増加

【事業実施による間接効果】

- ①防除作業の省力化による栽培管理の徹底に伴う秀品率の向上

**販売金額が
12%増加
(達成率122%)**

目標値
513,940円/10a
524,304円/10a
467,218円/10a



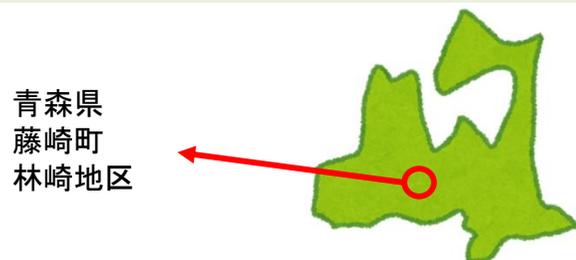
地域における独自の取組

〈主な取組〉

・園地の若返りや消費者ニーズに高い品種への更新支援

取組の概要

対象品目 : 果樹(りんご)(産地面積:45.6ha)
 主な取組主体: 林崎防除組合
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 (10a当たりの販売額)
 基準(H27年度)作付面積 : 39.7ha
 りんごの販売額 : 559,810円/10a
 目標(H30年度)作付面積 : 45.6ha
 りんごの販売額 : 615,885円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業
 (機械リース スピードスプレーヤー 4台)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

りんごの販売額10%以上増加の実現に向け、取組主体(林崎防除組合)が地域の関係者(町、県、JAつがる弘前等)と一体となって栽培方法の改善や面積の拡大に取り組むことによって高付加価値りんごを生産し、そのブランド化を図る。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ① 交信かく乱剤設置とりんごIPM技術を組み合わせた減農薬栽培への取り組み
- ② 防除受託面積拡大による交信かく乱剤設置効果の増進
- ③ エコファーマー認証取得者の増加
- ④ 高性能スピードスプレーヤーによる効果的な防除による商品化率向上

産地体制

町、県、農協等

- ・減農薬栽培等の指導
- ・認証取得への取り組み指導

実需者

指導・助言



林崎共同防除組合

機械リース(スピードスプレーヤー)

- ・共同防除による品質向上
- ・減農薬栽培による高付加価値化



需要に応じた供給

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- りんご産地としての競争力強化を図るため、園地の若返りや消費者ニーズの高い品種への更新等に取り組む
- 町による果樹共済加入農業者への共済掛金の一部補助、交信攪乱剤設置に係る経費や対象病害虫の発生状況調査等への補助を実施

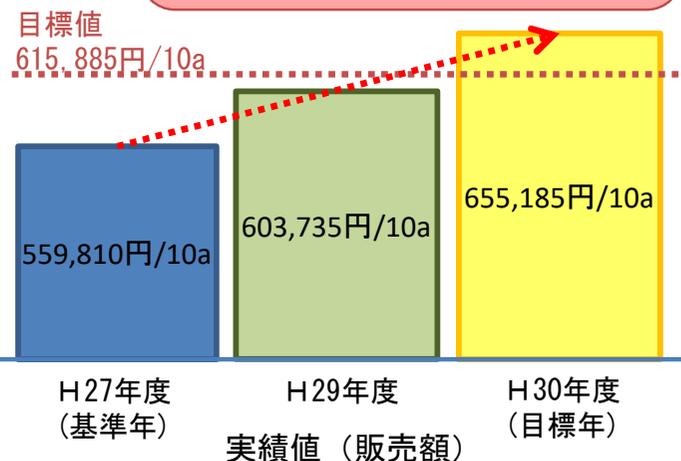
取組成果

【事業実施による効果】

- 高性能スピードスプレーヤーの導入により、効果的な防除ができたと共に、減農薬やエコファーマー認証に取り組むことにより、販売額増加を実現
- 高品質、高付加価値のりんご生産につながり、産地が強化



販売額が
17%増加
(達成率170%)

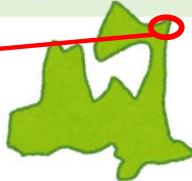


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(令和2~3年度:計画作成主体: 東通村農業再生協議会)

取組の概要

対象品目 : 施設野菜(いちご)(産地面積1.70ha)
 主な取組主体: 夏秋いちご農家4戸
 成果目標 : 総販売額の10%以上の増加
 基準(H30年度) 49,623千円
 目標(R4年度) 66,079千円
 導入施設等 : 生産支援事業
 (リース)自動かん水装置 一式(8棟制御)
 (資材費)自動巻上部材(7棟分)、パイプハウス
 (6.3m×50m、8棟分)、(自動巻上部材、
 遮光資材を含む)

青森県
東通村
東通村地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

この地域は、やませの影響による夏季冷涼な気候を生かし、夏秋いちごの産地化を目指している。これまで先進的大規模農業者が中心となり産地を発展させてきたが、近年、新規就農者が夏秋いちご栽培を始めたことで、更なる産地の拡大が期待されている。

新規就農者を中心に経営規模の拡大が課題となっているため、農業用ハウスの新設による規模拡大を推進し、自動かん水装置及び自動換気装置等を導入することでいちごの高品質化、省力化及び生産量の増加を図り、販売金額の10.0%以上の増加を実現する。また本計画の効果的な実施に向け、地域関係者(十和田おいらせ農協、東通村、下北地域県民局等)が一体となって事業推進に努めるものとする。

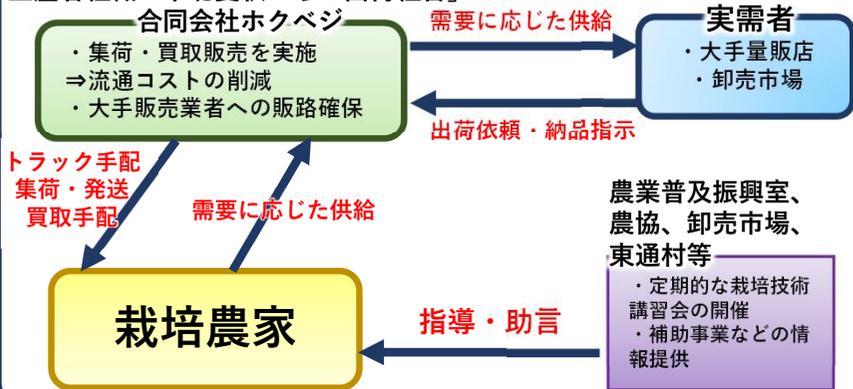


【産地の体質強化に向けた方策】

- ①担い手が施設野菜「夏秋いちご」を規模拡大するのに必要な資材、リース導入支援
- ②労働時間短縮のため自動かん水装置、自動巻上部材を導入

産地体制

生産者組織「下北夏秋いちご出荷組合」



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・選果基準及び栽培マニュアル作成
- ・定期的な栽培技術講習会の開催

取組成果

【事業実施による直接効果】

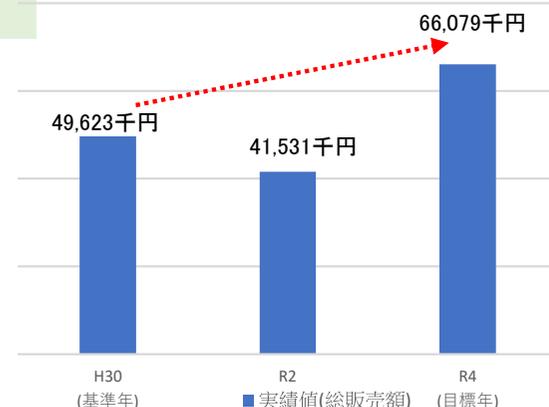
- ①資材・リース支援による初期投資の節減効果
- ②資材導入による労働時間の短縮

【事業実施による間接効果】

- ①担い手による作付面積が拡大し、生産量が増加
- ②施設野菜「夏秋いちご」の高品質化により、引き合いが更に高まり、販売単価が増加

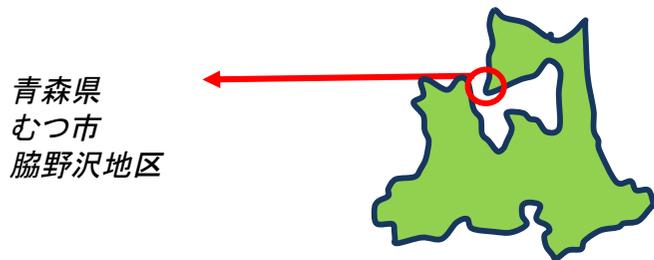


総販売額が
33.2%増加



取組の概要

対象品目 : そば
 主な取組主体 : むつ市脇野沢農業振興公社
 成果目標 : 労働生産性の6%以上の向上
 基準 (R2年度) 944円/h・10a
 目標 (R5年度) 1,003円/h・10a
 導入施設等 : 生産支援事業
 (コンバイン、スタブルカルチ、
 プラソイラ)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

本地域では、雑草対策のためは種までに多数の事前耕起が必要であるほか、排水不良の農地が多く、さらにそばの刈取にも多大な労力を費やしている。
 そのため、高性能機械の導入により、ほ場改良のほか、単位面積当たりの総労働時間を削減し、捻出した時間を活用して販路を開拓し、販売額の増加を図る。



【産地の体質強化に向けた方策】

脇野沢農業振興公社が「そば」の作付けに必要な機械等のリース導入支援

産地体制

むつ市脇野沢農業振興公社

○耕起・収穫作業の機械化による省力化

むつ市、下北地域県民局等

機械リース

指導・助言

・定期的な栽培技術講習会の開催
 ・栽培指導

取組成果

【事業実施による直接効果】

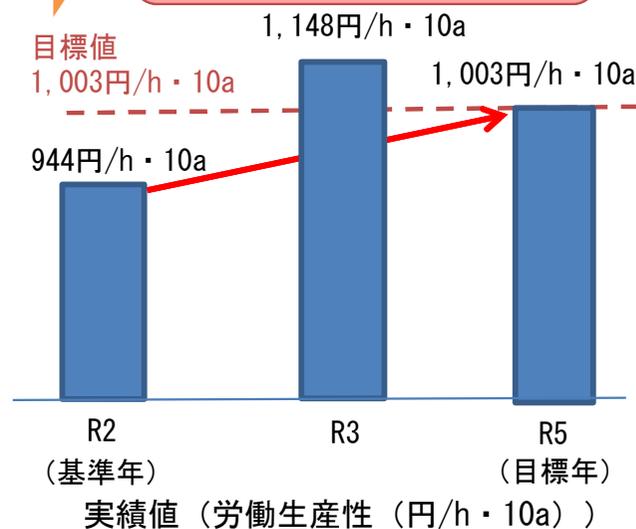
産地におけるそばの労働生産性向上

【事業実施による間接効果】

耕起・収穫作業の機械化による省力化。



労働生産性が
6%以上向上



地域における独自の取組

〈主な取組〉

○耕起・収穫作業の機械化による省力化を図り、遊休農地を活用して面積を拡大